

大震災・復興ニュース(第54報)

平成24年4月26日
 仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況(国及び県全体の動き)

宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

- 1 測定年月日 平成24年4月17日～25日
- 2 測定分析機関 宮城県, (財)日本分析センター, 東北緑化環境保全(株), (株)総合水研究所
 いであ(株), (財)日本冷凍食品検査協会, (独)水産総合研究センター-中央水産研究所
 (財)日本食品分析センター

3 測定及び対応結果

仙台市横川のイワナ, 丸森町のヤマメ・ウグイから基準値を超える放射性セシウムが検出されました。このため, 県から4月19日付けで採捕自粛を要請しました。

なお, 阿武隈川のヤマメ・ウグイにつきましては既に3月1日から採捕を自粛しています。

また, 亘理沖のヒガンフグから基準値を超える放射性セシウムが検出されましたが, これにつきましては, 仙台湾南部海域として4月1日から既に水揚げを自粛しています。

さらに, 亘理吉田地先のヒラメから基準値を超える放射性セシウムが検出されました。このため, 県から4月23日付けで仙台湾南部海域での出荷自粛を要請しました。

水産物(漁獲日 平成24年3月20日～4月19日) (単位:ベクレル/kg)

種別	漁獲場所	放射性セシウム	種別	漁獲場所	放射性セシウム
シャコエビ	荻浜湾内	不検出	マガレイ	女川湾沖	3.5
生ワカメ	荻浜湾沖漁場	不検出	ネズミザメ	三陸南部沖	10
ツナシホアミ	本吉町大谷沖	0.76	ババガレイ	気仙沼市本吉沖	2.6
ツナシホアミ	金華山-江の島沖	0.66	ヒレグロ	気仙沼市本吉沖	3.7
ソウハチ	雄勝町大須沖	11.9	ヒラメ	気仙沼市本吉沖	14
ババガレイ	雄勝町大須沖	0.71	アカガレイ	気仙沼市本吉沖	4.3
ヒラメ	雄勝町大須沖	6.7	イラコアナゴ	気仙沼沖	不検出
マコガレイ	雄勝町大須沖	2.8	ヤナギダコ	気仙沼沖	不検出
アカガレイ	雄勝町大須沖	3.2	イトヒキダラ	気仙沼沖	0.48
アイナメ	女川湾沖	4.3	イバラヒゲ	気仙沼沖	不検出
クロソイ	女川湾沖	不検出	ツナシホアミ	江の島沖	不検出
Eゾイアハメ	女川湾沖	不検出	スズキ	松島湾	59
コモンカスベ	女川湾沖	不検出	サヨリ	松島湾	9.8
ケムシカジカ	雄勝沖	4	ヌマガレイ	松島湾	15
イシガレイ	女川湾江の島沖	不検出	ヒガンフグ	松島湾	71
ケガニ	雄勝町大須沖	不検出	ヒメエゾボラ	仙台湾	不検出
スズキ	東松島市浜市沖	42	マダラ	名取市関上沖	71
ヒガンフグ	東松島市浜市沖	62	マコガレイ	名取市関上沖	12
アイナメ	石巻市田代島沖	10.8	アカガレイ	名取市関上沖	3.3
ヒラメ	仙台湾山元沖	24	ヌマガレイ	名取市関上沖	19
スズキ	亘理町吉田沖	<u>162</u>	スズキ	名取市関上沖	66
トラフグ	亘理町吉田沖	19	イシガレイ	名取市関上沖	16
ヒガンフグ	岩沼市二の倉沖	<u>146</u>	マガレイ	名取市関上沖	23
メバチ	太平洋沖合	不検出	ヒメエゾボラ	七ヶ浜沖	不検出
キハダ	太平洋沖合	不検出	スズキ	名取市関上沖	77
ミンククジラ	宮城県沖	0.7	マダラ	名取市関上沖	25
イワナ	大崎市(荒尾川支流古沢)	86	マアナゴ	松島湾	15
イワナ	仙台市(大倉川支流横川)	<u>198</u>	ヒラメ	亘理吉田地先	<u>400</u>

イワナ	蔵王町(澄川)	30	キンメダイ	太平洋沖合	0.6
ヤマメ	丸森町(雉子尾川)	271	ツカサビダイ	太平洋沖合	不検出
ウグイ	丸森町(阿武隈川)	407	ヨシキリザメ	太平洋沖合	不検出
ネズミザメ	三陸南部沖	11	メカジキ	太平洋沖合	不検出
マダラ	気仙沼市唐桑沖	18	メバチ	太平洋沖合	不検出
ネズミザメ	三陸南部沖	13	キハダ	太平洋沖合	不検出
ヨシキリザメ	三陸南部沖	1.4	マカジキ	太平洋沖合	5.5

放射性物質の値は漁獲日における値を示す。

2 管内の復興に向けた動き

<トピックス>

しおがま復興市民まつりが開催

4月22日(日)、本塩釜駅前において第29回しおがま復興市民まつりが開催された。

マグロの町塩釜を象徴する101mジャンボ鉄火巻をはじめ、水産関連ブースが人気を集めた。

水産物関係では、塩釜市浅海漁業振興協議会によるワカメ販売、塩釜市水産青年連合会によるタラとサンマすり身の「塩釜汁」チャリティ販売、商工会議所女性部の昆布入り「もえぎそば」提供が行われ、特に塩釜蒲鉾連合商工業協同組合の「笹かまドッグ」には親子連れの行列が見受けられた。



笹かまドッグが人気

カキの原盤の挟み込み作業が盛ん

管内の浜ではカキ原盤の挟み込み作業が盛んになっている。

原盤は昨年夏に地先漁場で天然採苗されたものであり、挟み込み後沖出しされ、今年の冬に収穫される見込みである。



東名での挟み込み作業

災害復旧応援職員の紹介

宮城県水産関係者の皆様、はじめまして。私は東日本大震災復興のため、「こんびらさん」で有名な？四国の香川県から仙台地方振興事務所水産漁港部水産振興班に配属された加賀田です。

宮城県と香川県は約1,100kmも離れていますが、松島の種牡蠣でお世話になったり、以前は、サケ・マス船団の母港が気仙沼にあたりと何かと縁があります。

自論ですが、全国どこの漁業者も、海を守り、魚を語る人で、縁がある人の集まりだと思い込んでおります。

また、漁業は歴史と伝統のうえに成り立っており、あらゆる地元ルールが存在し、農業とは違い、杓子定規に理解できないのが漁業。だからこそ時代とともに変化しつつも、伝統と歴史を重んじて、未来に継承されなければいけません。

平成24年度は、災害復旧はもとより、これからの宮城県水産業の飛翔飛躍に大事な年と思い、さぬきうどんの如く粘り腰でご協力させていただきますので、よろしくお願ひします。

なお、浜でこの顔にピンときたら、「さぬきうどん、だっちゃ？」と声をかけてください。



加賀田薫さん